

9月13日(土) 午前

NK 10:00~12:10	
NK①「心理アセスメントの基礎」(60分) 心理アセスメントとは、観察・検査・面接によって、対象者の病的な側面と健康的な側面の両方を、全体的に臨床像をつくりあげて、問題を捉え直すことである。このような “心理臨床家の見立ては、その後の対象者への関わりを産出するもの” という基本的な視点より、目的に応じた心理アセスメントの意義と方法について概説する。	松瀬 喜治 (佛教大学)
NK②「描画による支援の基礎と職業倫理」(60分) この講義の目的は、専門家として人の相談を受けて支援するということがどういうことなのか、その際にどのような心構えや倫理上の配慮が求められるのかについて、受講者が深く考えていくための基礎的な知識や材料を提供することである。最初に、人を支援する目的と支援の方法について論じる。次に、人を支援する際の倫理について、ハラスメント、多重関係、守秘義務、研究倫理に分けて、具体例をあげて説明する予定である。	生地 新 (北里大学)
NO 10:00~12:00	
NO①「描画による心理面接の事例検討」(120分) 日本描画テスト・描画療法学会が認定した認定描画療法士は、その資格を継続するために、描画テストによるアセスメントと心理療法としての描画療法を実施していくことと、応用実践コースの研修会に参加することを求めています。描画による心理面接とは、描画を心理療法として用いることを指しています。この分科会は、実際の描画療法の事例について、認定描画療法士が相互に検討していくためのものです。 一定期間実施された描画療法の事例を募集します。毎回、描画療法を行った事例がよいのですが、カウンセリングの中で、複数回の描画を行った事例でもかまいません。	高橋 依子 (大阪樟蔭女子大学)

W1 - W4 各々10:00~12:30	
<p>W1 「動的家族画」</p> <p>バーンズとカウフマン (1970, 1972)は、人物画や家族画に動的要素を加味した動的家族画 (KFD) を確立することにより、静的なものに力動性が示され、質・量ともに獲得情報が増加し、多義的な臨床的知見が得られる新しい次元の描画法となった。さらに、1985 年には、ノフとプラウト (1985)が、動的家族画に動的学校画(KSD)をシステムとして用いる、動的家族・学校描画システム法を開発した。これらの描画法は児童青年はじめ、成人の臨床にも多く活用されている。本 WS では、KFD の技法及び様々な分析指標を紹介し、時間が許せば臨床事例も紹介したい。また KSD についても少しふれたい。受講者の皆様が今後 KFD を実践しようされる上で有用な実践と情報提供を行いたい。</p>	<p>橋本 秀美 (大阪樟蔭女子大学)</p>
<p>W2 「バウムテスト」</p> <p>カール・コッホによって体系化されたバウムテストは、幼児から高齢者までに適用できる投映描画法として、臨床のみならず教育・司法・産業領域などで広く利用されています。その理由は、実施法が簡単な割に得られる情報が多く、有用なことが実感されているからでしょう。ワークショップでは、『バウムテスト第3版』(2010)を基に、①解釈仮説構築におけるコッホの2つの観点、②指標の判定基準、③実施法の詳細の3点に絞ってバウムテストの基礎をお話したいと思います。</p>	<p>中島 ナオミ (元関西福祉科学大学)</p>
<p>W3 「描くよろこび, 画く療法」</p> <p>絵を描くということは、身体の細部に良い影響を与える。ワークショップ体験を通して、このことを伝えたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重 500 g 以下で生まれた女の子が絵を描いた日のこと。 ・96 歳の男性が絵画教室でおっしゃったことば。 ・脳梗塞で倒れた 40 代後半の男性が十数年継続して絵を描いたことで、歩行も、会話も出来るようになった事例、等々。 <p>私が二十数年、福祉施設現場で実践してきた年月の中で患者から学んだこと、伝えたいこと、これからのこと、をワークショップに参加される皆様と共に考えたい。お会いできる日を楽しみにしています。</p>	<p>中道 芳美 (小羊学園)</p>

W4 「母子画」

母子画は「お母さんと子どもの絵を描いてください」と教示する描画法である。母子画の特徴は、表現された母親像と子ども像から、描き手の心の中にある他者イメージ、特に描き手と他者の関係性のイメージを理解することである。ワークショップでは 母子画の実施法、大学生を中心とした健常例の母子画や臨床例の母子画を提示しながら、母子画を解釈するための着眼点について解説し、臨床 的な母子画の利用法について紹介する。

馬場 史津（中京大学）